

誇りと自信を取り戻す復興に取り組み
目黒吉久町長 初登庁

任期満了に伴う只見町長選挙で再選された「目黒吉久氏（60）」が、12月17日に初登庁されました。目黒町長は役場本庁の正面玄関で大勢の職員に拍手で出迎えられ、花束を笑顔で受け取られました。

その後の就任式で目黒町長は「昨年は原発事故や新潟・福島豪雨により町は大変な被害を受け、町民の誇りが傷つけられた。町民の

心の中にできた亀裂をつなぎ、誇りと自信を取り戻すための心の復興にも全力で取り組んでいく。足もとからできることを一つ一つ積み重ねる仕事をしていく。職員としての自負を持ち職務に取り組んでほしい」と訓示しました。

目黒町長の2期目となる任期は、平成24年12月16日から平成28年12月15日までです。



▲職員から花束を受け取る目黒町長(右)

役場庁舎建設にかかると
技術提案書を一般公開

町では12月14日に役場庁舎建設設計にかかる技術提案書を一般に公開しました。

今回公開した提案書は、第一次審査を通過した第二次審査会用の提案書で、18者の公開となりました。

公開会場の役場本庁には町民の方々が訪れ、パネル展示された提案書の一つ一つ確認されたあと、感想や意見などをアンケート

役場庁舎建設にかかると
技術提案書を一般公開

ートに記入していました。アンケートで集約された町民の意見なども考慮され、12月中旬に、第二次審査会が行われ、第三次審査会で審査される5者が決定しました。第三次審査会は住民公開により、2月17日に季の郷湯

ら里で行われ、最優秀者1名と優秀者1名が決定する予定です。

只見町青少年健全育成町民会議が表彰

只見町青少年健全育成町民会議が福島県青少年育成県民会議から11月21日に表彰されました。

町青少年健全育成町民会議は、青少年が地域社会の一員として地域との関わりを深め、活動することを奨励する町独自の事業を展開し、毎年多くの団体が積極的に活用、様々な活動を行っています。また、3つの専門部会により事業を行い、家庭と地域、学校が連携しながら、心豊かな青少年を育成するための環境づくりにも積極的に取り組ん

でいます。このような地域全体で取り組んでいる模範的な活動が評価され表彰されたものです。



▲表彰状を手にする齋藤教育長

町職員の新規採用・退職

○新規採用町職員（12月1日付）

産業振興課 農林班 ながみず たかし 長水 崇（派遣職員）

※長水さんは豪雨災害に伴う復旧作業の応援職員で北海道宗谷総合振興局産業振興部林務課から派遣されました。



○退職町職員（11月30日付）

産業振興課 農林班 市川 暁（派遣職員）

※市川さんには豪雨災害に伴う復旧作業の応援職員として8月から4ヵ月間お世話になりました。ありがとうございました。



▲アンケートに記入する町民

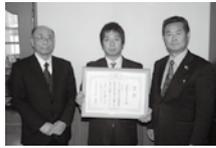
福島県教職員研究論文表彰 只見小学校が入選・只見中学校が奨励賞

福島県教育委員会が主催する平成24年度福島県教職員研究論文表彰事業で、只見小学校（高橋吉博校長）が入選、只見中学校（吉津政一校長）が奨励賞を受賞されました。

この事業は、特色ある授業や学習指導を展開しながら、より良い教育の向上に努めている学校の教育研究に対し表彰するもので、只見小学校は「自ら学び、ともに考えを深め合う児童の育成～個の学びを保障した学び合いを通して～」と題し算数の学力向上について研究され、また、只見中学校は「一人ひとりが主体的に学び、確かな学力を身につける指導の工夫～基礎・基本の活用、活動を通して～」と題し学習指導の向上について研究されたそれぞれの活動や取り組みについて表彰されたものです。



▲入選の只見小

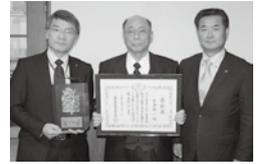


▲奨励賞の只見中

吉津政一 只見中学校校長 学校教育功労賞受賞

吉津政一只見中学校校長が福島県教育委員会から11月1日に表彰され、学校教育功労賞を受賞されました。

吉津校長は、平成10年度から全5校で15年間にわたり校長職を務められ、学校運営に全力で取り組まれるとともに、校長会の要職を歴任、地域教育の振興に努められました。平成24年度には南会津郡小中学校長協議会の会長に就任され校長のリーダーとして尽力されています。このように、県内学校教育の充実、進展に多大な貢献をされていることが評価され受賞されました。



▲表彰状を手にする吉津校長(中央)

▼海外のカゴ編みの事例紹介
カゴ編みの紹介の中で、アメリカでは、国内全土から作品が集まるカゴの展示会が行われていること、説明があり、そこではツルだけでなく、材料として樹皮や木を割いて作るカゴなども展示されているとの話があり

▼縄文時代からのカゴ編みの歴史
谷川氏は、縄文時代の遺跡からも、テイクアラなどのツル植物で編まれた美しいカゴが出土しており、これらのカゴは、現代とほとんど同じ技術で編まれていて、縄文時代からカゴ編みの技法が伝承されていることについて話されました。

▼最後に...
参加者からは、クワの樹皮やガマの葉の利用方法、アケビのツルの干し方など、ツルを編んでいる方からの質問がありました。また、ガマ、ヒロロ、カンシゲなどの草類は材料として採取しても毎年再生するため、自然にやさしいとのことでした。今回の講座には、カゴ編みの魅力にひかれる方々が県外からも参加されました。皆さん、とても勉強になったと満足そうな様子でした。

只見町ブナセンター

ブナセンター講座

ツル細工の種類と伝統

12月1日に、ブナと川のミュージアムで日本女子大学櫻楓家庭工芸研究所の谷川栄子氏を講師に、ブナセンター講座「ツル細工の種類と伝統」が開かれ、29名が参加しました。



▲ツル細工の話をする谷川氏

12月18日・3歳児健診
虫歯のない子



やなとり だん 暖 くん (小林)



さいとう ぜん 齋藤 全 くん (只見)



ますだ みずき 増田 瑞希 さん (小川)



ほんな たいせい 本名 大成 くん (福井)



たつ ひさと 立野 陽聖 くん (只見)



きつ ふうか 吉津 風花 さん (長浜)



かんげ あさと 菅家 旭登 くん (黒谷)